



ほぼ風なく、穏やかな水面をカルガモが群れをなして泳いでいました。まだ冬鳥は見つかりません。大型で猛烈なと形容される台風19号が2,000km 南の海上にいて南から暖かい風を運んでいます。展望台から東を眺めたら猿投山がきれいに見え、駐車場への帰り道、東郷町のランド側の林から弱々しくなくツクツクボウシの声を耳にしました。



モンシロチョウおす

愛知池にはキャベツはないですが、モンシロチョウの飛ぶ季節が終わりに近づいて、めすとの出会いを求めて移動しているのでしょうか。蛹で越冬します。



ウラギンシジミ

卵をクズの花蕾に産み付けます。秋に生まれたウラギンシジミは成虫で越冬します。



羽の表：雄(左)は鮮やかなオレンジ色、雌は地味めです。



サンカクチバと思われる

幼虫



シャクトリ虫のような歩き方

ですが、食草はヤハズソウです。夏から秋にかけてみられ、羽の幅 20 ミリほど。



ノシメトンボめす



右下がいわゆるノシメだが名前の由来と言われる

と??です。羽の先の模様がノシメの由来とする説もあるそうで、これも??です。雄でもあまり赤くはならないも赤とんぼです。赤くなるコノシメトンボに比べて少ないようです。



アキアカネめす



赤とんぼの代表種です。雄は左のように

腹部背面が夕焼けのような茜色になります。田んぼで産卵しそのまま冬を越して春にふ化するので田んぼに水がなかったり農薬の影響を受けたりすると生存が難しいです。



### モズの高鳴き

キーキーと高い声があちらこちらから聞こえてきました。縄張りを宣言しているのです。餌の少なくなる季節を前に、オスもメスも縄張りを作ります。捕まえた獲物を枝先に突き刺す「はやにえ」という行動が見られる季節になっています。



キリギリスおす道端でギーチョンという声を聞くことはなくなりましたが、虫網に入りました。体を観察していたら羽をわずかに起こし震わせて音を立てました。前足の脛節の付け根に耳があるはずと見ていたのですがエンマコオロギほどははっきり見えません。



### セグロイナゴ

背中の黒いイナゴの仲間です。自然度が高く適度に管理された草原に多いとされます。この近辺ではあまり見られませんが、愛知池では割合普通に見られます。、毎年見ていると都市によって変動があるように感じます。



### トノサマバッタ・胸の気門



胸の気門は羽の筋肉を働かせるために大きいです。ルーペで見ていると、気門が閉じたり開いたりするのが見られます。(上:開く、下:閉じる)



### クルマバッタ

(胸の矢印は気門を指しています)愛知池のダムや百年の森にはトノサマやクルマなど大型のバッタが住み続ける環境があります。のべ 30 分ほどで 16 種類のバッタの仲間(内:声のみ 2 が見つけられました)。

**植物** ツユクサ、アレチヌスビトハギ実、オオニシキソウ実、ワレモコウ終わり、イヌタデ、ヘクソカズラ実、ヒメジヨウ、メリケンムグラ実、イシミカワ実、イヌコウジュ、ヤマイ、イガクサ、イヌノハナヒゲ、アリノトウグサ、トウカイカイコモウセンゴケ、ノギラン実、ヒヨドリバナ終わり、アジサイ一輪、フヨウ一輪、イタドリ、ヤマハギ、イロハカエデ実、ミヤマガマズミ実、カクレミノ実、ヤマハゼ赤くなりかけ、シラカシ実、サクラ落葉、アオツツラフジ実、ナンキンハゼ紅葉始まり、オニグルミ3株、**昆虫** キタキチョウ、ウラギンシジミよく飛ぶ、セグロイナゴ、トノサマバッタ、ショウリョウバッタモドキ、クルマバッタ、ショウリョウバッタ、コバネイナゴ、ハラヒシバッタ、ツチイナゴ、エンマコオロギ、マダラスズ、ホシササキリ、オナガササキリ、キリギリス、ツユムシ、鳴き声(ツクツクボウシ帰りがけに一声、エンマコオロギ、ハラオカメコオロギ、アオマツムシ)、ノシメトンボ♀、ウスバキトンボ、アキアカネ雌雄、マユタテアカネ♂、オオスズメバチ、オスグロハバチ♀、**クモ** ジョロウグモ幼体、クリチャササグモ、ササグモ、ミスジハエトリ、ヒトリコゲチャハエトリ、ナガコガネグモ、チュウガタシロカネグモ、コクサグモ交接、**鳥・その他** ハシブトガラス、コゲラ声、ヒヨドリ声、モズ声、カワウ水面で泳ぐもの多数、カルガモ5、カイツブリ2、茸(夏に生じたマンネンタケ)

**次回は10月10日(木)、午前9時30分~12時、水資源機構P前集合、参加費100円**